

高齢化社会の現状と課題

高齢者世帯増加



渡辺 功 議員



① 高齢化率および高齢者世帯の状況と見通し。

② 年齢別人口（年少人口・生産年齢人口・老年人口）と将来見通し。
③ 高齢社会対策の推進内容。
④ 今後の課題。



① 別表1
② 別表2

③ 地域包括支援センターでは、高齢者の総合相談、各種教室、講座等。また、介護サービスでは、緊急通報整備、徘徊高齢者支援、高齢者タクシー利用助成等のサービスの実施。
④ 寝たきりや、認知症などの介護を必要とする高齢者が増加する中で、核家族化による、介護力の低下や負担の増加。

別表2 年齢別人口

区分	20年5月1日	21年5月1日	22年5月1日	23年5月1日
高齢化率(65歳～)	20.9%	21.9%	22.3%	22.1%
年少人口(0歳～14歳)	3,497人	3,486人	3,566人	3,806人
生産人口(15歳～64歳)	16,323人	15,977人	16,181人	16,565人
老年人口(65歳～)	5,245人	5,467人	5,683人	5,786人

別表1 高齢者世帯数

区分	20年7月末	21年7月末	22年7月末
65歳以上ひとり暮らし世帯	386人	429人	452人
夫婦とも70歳以上世帯	428人	467人	481人

介護保険の推移

策定中



① 要介護（支援）者と保険給付費の推移。

② 24年度からの介護保険料の予想額と対応。
③ 広域連合での運営に対する見解は。



① 別表3

② 平成24年度から26年度までの介護保険料を算定するため、現在第5期介護保険事業計画を策定中により未定。
③ 広域連合での介護保険事業運営は、電算システム等の調整も課題となることから、現在は考えていない。

循環バスの課題

要望への対応



① 事業者と運営方法。

② バスの種類と台数。
③ 2路線での運行本数と所要時間。
④ バス停やダイヤ等の周知。
⑤ 試行運行期間中での課題や要望等の把握と対応。
⑥ 総合病院等への乗り入れを要請。
⑦ 年間経費および国庫補助金の対象となるのか。



① 大興タクシー(株)に委託し、専用の貸切バスとして運行する。

② 車両は、トヨタハイエースで乗車定員15人で2台とする。
③ 2路線それぞれ6便で所要時間は1時間30分程度を見込んでいる。
④ 町のホームページに掲載し、バスマップや時刻表を全戸配布する。
⑤ 利用者アンケートやヒアリングを行い、運行評価委員会に諮り見直しも行う。

⑥ 当初の試行運転では、町外への運行は行わない。
⑦ 1年間の運行委託費は2,170万円ほどになる。貸切バスのため、国庫補助金の対象にはならない。

別表3 要介護（支援）者数・保険給付費

区分	21年3月末	22年3月末	23年3月末
要介護者	496人	527人	511人
要支援者	115人	107人	134人
合計	611人	634人	645人
保険給付費	965,498千円	1,095,776千円	1,129,686千円